

11月のくらし

寄生虫予防運動  
(11月21日~30日)  
葉と健康の週間  
(11月23日~29日)

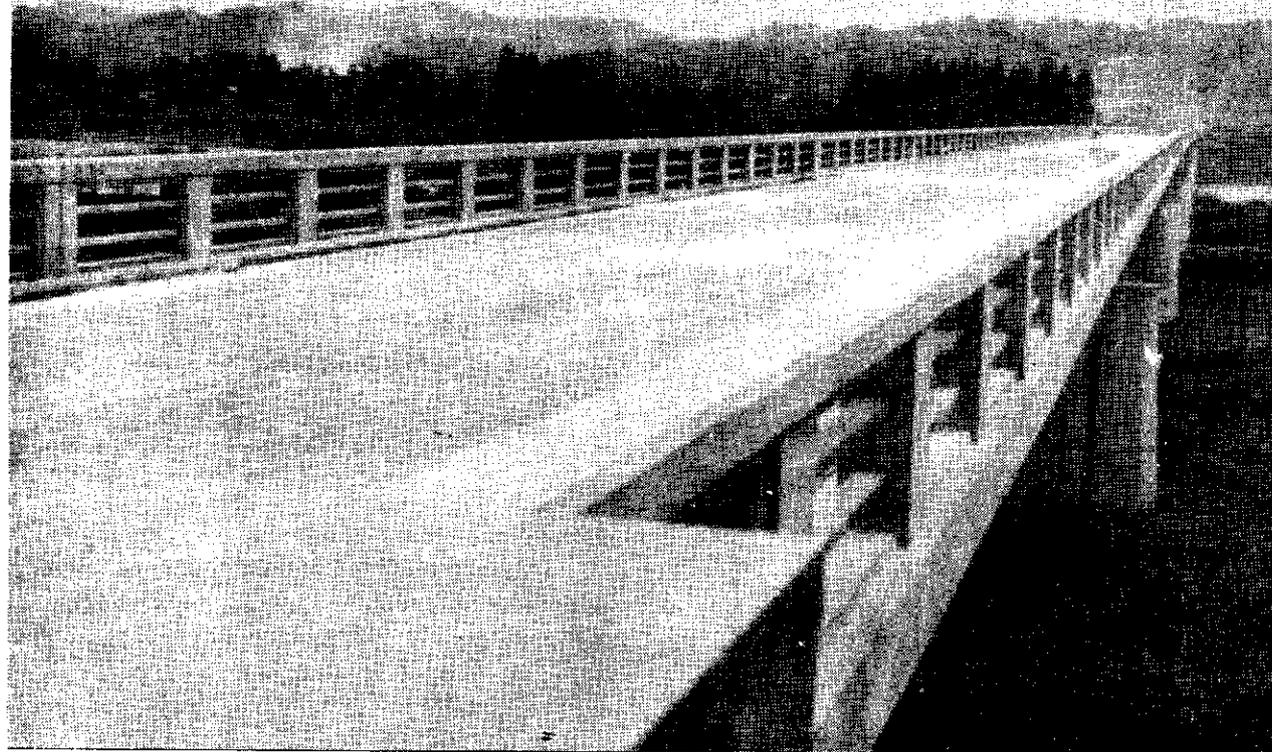
# 広報かわにし

所長 川西町役場  
発行 川西村  
所長 川西村役場  
編集 星白  
印刷 星白  
編集 星白  
印刷 星白

一人口の動き  
11月1日現在

男 6,233人  
女 6,589人  
計 12,822人  
世帯数 2,607世帯

写真はみごとに完成し渡橋式をまつばかりの栄橋(四日写す)



## 待望の栄橋完成 竣功式は十二日

栄橋期成同盟会幹事

(川西町助役) 田口一男

わたくしども地区住民にとって多年の念願であった川西町十日市を結ぶ栄橋がこのほど完成、十一月十二日に竣功の盛典を挙げる運びとなったことは、まことに同慶にたえません。

地域の振興発展の基は、まず道路、交通網の整備改良にあるという方針のもと、昭和二十七年七月四日、橋小学校において参事者百八十四名を得て、信濃川架橋期成同盟会の創立総会を盛大に挙行、一致協力してこの目的完遂のため強力に推進する決議がなされ、関係方面に対し陳情、請願の運動にいたしましたのであります。

以来、関係各位においては、たゆまざる努力をつづけてきたのであります。とにか、道のないところへ長大橋をかけること、多額の工事費を要する難事業である点等々、当局者の労苦もひとおりではなかつたわけでありました。

幸いにして、国、県当局ならびに関係各位の熱心なご協力によって多年の願望はようやくに実り、昭和三十四年、架設の方針が決定をみるにいたりしました。

工事はまず東側取り付け道路から開始され、以後六年の歳月を営々として工事が続行、ここにもめでたく、東側道路六百メートル、橋梁および西側道路三百三十メートルができたのであります。

橋名については、昭和三十四年一般から募集した百二十数点中より、当時の県知事北村一男氏が栄橋と選定命名されたのであって、当地方の弥栄(いやさか)を願ういわれをもった由緒ある橋名といえます。

さて、長さ四百二メートル、六メートルの白亜近代的な大橋は四囲の自然美の中に大きく、しかも鮮やかに浮き出され、ナトリウム灯が川面にゆれる夏的情緒等、妻有溪谷にひとつの名所が現出することでしょう。

この喜びの竣功式は県主催で行なわれますが、まず渡橋式を栄橋の左岸橋詰(木落側)の道路上で挙式、つづいて渡り初めの行事に移り、対岸まで渡り着いたあと、下条小学校において竣功式を挙げる運びになっています。

なお、当日は地元においても多彩な祝賀行事が計画されていますので、歓喜にあふれる一日となることでしょう。

特筆すべきは、この栄橋は国道柏崎、会津若松線の主要橋梁であって、橋の完成によって当地方にもたらず交通の便益はもろろのこと、産業、文化の進展に大きな役割りを果たすと信じてやみません。

### 国民年金業務

大田表彰

川西町の国民年金適用率と検認率が優秀であるとして厚生大臣表彰が決定した。

町議会報告

補正予算を議決

国保は一月から七割給付

十月十二日に招集された第十二回臨時会において、一般、特別両会計を合わせて一千二百五十四万円の補正が行なわれたほか、条例改正三件を可決、請願一件が所管委員会に付託された。

赤谷橋復旧等

八百十二万

一般会計

一般会計の補正は第三回目、追加額は八百十二万円。内訳は、赤谷橋の災害復旧費七百十九万を主体として、岩瀬坪野の道路復旧大倉、室島の田復旧等の農林水産施設災害復旧費が八百四万円、国土調査関係の事業費決定に伴う地籍調査費の追加が八万円となつてゐる。これに対する才入財源は、災害復旧費分担金百七十一万円、国庫補助金四百五十万円、郡土地改良協会負担金に充てる寄附金十六万九千円、町債二百三十万円のほか、不足分十一万円を繰越金の増でまかなつて収支を合わせた予算である。なおこの補正によつて一般会計才入才出予算の総額は一億八千二百八十八万一千円となつた。

国保財政に

活発な質疑

特別会計の補正は、国民健康保険事業勘定の追加四百四十二万七千円である。これは、受診率の増に伴う療養給付費の自然増と来

才入は、保険料の増五十七万一千円、国庫支出金の増三百八十五万六千円、合わせて才出と同額の四百四十二万七千円となつてゐる。なお国庫支出金の内訳は、家族七割給付分百二十七万九千円を含む財政調整交付金三百五十二万六千円と、過年度分療養給付費負担金三十三万五千円である。以上の補正によつて国保事業勘定の予算は、才入才出とも三千五百三十四万九千円となつた。審議の過程において、保険料値上げに伴う今後の療養給付の見通し、集団カゼによる給付増と診療所収入の関係等について活発な質疑が行なわれ、この問題に対する町民の関心が反映された形であつた。

旅費条例を改正

条例改正としては、国保条例のほかに特別職と一般職の旅費支給条例の一部改正が行なわれた。特別職の旅費支給条例の改正は「往復百五十キロを以て日帰り出張の場合、食卓料二百円を支給する。」というものである。これはさき第七回定例会で同趣旨の改正が行なわれた一般職の旅費支給条例に準じたもので、「準急うおの」の運行等により新瀬日帰り出張が多くなつたため、これに対応する改正である。

一般職職員の旅費支給条例の改正は、第十回定例会で給料表の改正が行なわれて等級に異動が生じた結果、旅費日当の区分について二等級から三等級に格下げになるといった矛盾が起きたこと、日当

第三回農業青年会議終わる

十日町地区農業改良普及所、川西町教育委員会などの主催で、さる四日、十日町市公民館を会場に郡市の農業青年会議がひらかれた。

本町からは伊友の尾名賢一君が「水稻直播栽培」と題して発表を行ない参加者の注目を呼んだ。また金子社教主事もパネルマンとして登壇するなど川西勢の動静がめだつてゐた。



(写真はその会場)

町内医療機関の

大同団結など

全員協議会で検討

本会議終了後全員協議会を開き当面の問題十四項目について協議した。そのおもなる事項は、「町の医療体制について」「患者輸送

用雪上車について」「栄橋竣工式について」「北越線着工促進運動について」等々である。これらのうち最も重要な事項として「町の医療体制」については特に慎重な協議が行なわれ、診療所経営の再建について、菅原医師の退職に伴う町内医療機関の大同団結問題、真人と橋地区を区域とする小千谷市との一部事務相合案などが検討された。その結果、この問題は町の保健医療行政の面からも、また財政面からも根本的に検討する必要があるとして、特別の委員会を設置してこれに審議を付託することとなつた。

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

- 保坂 国彦 國夫長男 上町
南雲 智子 藤平三女 中屋敷
高崎 正仁 正弘長男 学校町
喜多 秀一 健市長男 東善寺
丸山 美智代 高夫三女 籍條
田中 啓二 義雄二男 下平
相崎 光子 熊二長女 沖立
田村 久史 重正長男 鶴吉
蔵品 廣行 信義長男 籍條
上村 繁行 誠三男 上野
田村 龍也 昭平二男 上野
古澤 裕 英保二男 上野
上村 由美子 次雄長女 上野
上村 修 健一長男 下平新田
丸山 義則 秀夫長男 原田
引間 俊行 浩介長男 中仙田
高橋 博明 千代治二男 戸
高橋 和弘 藤一長男 小脇
高橋 喜代子 喜代作長女 高倉
登坂 新一 新治長男 岩瀬

昇天—御めい福を祈る

- 蔵品 タツ 霜 森 八四
澤口 ケニ 上野 八二
登坂 源吾 岩瀬 七七
小林 倉藏 新町新田 六九
青木 ヤイ 木落 五一

たかさご—御円満に

- ◎新郎 金子 保夫 岩瀬
◎新婦 平山 博子 長崎から
◎新郎 数藤 廣一 伊友
◎新婦 松澤 セツ 川治から
◎新郎 中島 利男 下平新田
◎新婦 中嶋 ヒロエ 前橋から

# 赤ちゃんコンクール

第7回赤ちゃんコンクールで男女各10名の健康優良児が生まれた。きよねんの4月1日からことしの3月31日までの間に生まれた赤ちゃんが対象で、さる5日役場で行なつた表彰式で中村町長から賞状と賞品が贈られた。

晴れの優良児と、よろこびのパパさん、ママさんは下記の名簿のとおりである。

なお、このうち中村典夫ちやんが県入選郡一位だつたほか、柄沢マチ子ちやんが郡二位となり、野沢浩和ちやん・渋谷倫子ちやん・高橋登美江ちやん・江口ほづみちやんもそれぞれ郡で入賞した。

## 昭和39年度健康優良児名簿

男子	女子			
(部落名)	(乳児氏名)	(父)	(母)	(続柄)
木島	中村典夫	貞吉	カツイ	長男
坪山	引間寿浩	寿一	マサ子	長男
桐山	桑原守	勇	シゲ	長男
上野	古沢実	英	棟子	長男
伊友	羽鳥幸夫	幸政	イツミ	3長男
高原田	丸山博之	平一郎	イミ	3長男
中仙田	小林広美	精一	ヒデ	2長男
岩瀬	中条尚志	清	房	2長男
野口	大久保勝行	浩和	篤君	長男
野口	野沢浩和			
沖立	柄沢マチ子	寅由	サト	長女
中央町	渋谷倫子	久	サチ子	長女
中学校	高橋登美江	幸吉	美代志	長女
発通	増田ひろみ	義則	ヒサ子	2長女
下野	田中佐智子	義勝	洋子	長女
三領	上原俊美	俊雄	ケイツ	長女
小白	水品桂子	真治	タツ子	長女
木島	江口ほづみ	克己	恵美子	長女
室島	大井紀子	喜一郎	曠子	長女
	米山弘美	高重	美江	長女



役場会議室で行なわれた健康優良児の表彰式風景

ことし一年生の娘がある。ひとりっ子。ムコ探がしには苦勞なうけてもよさそう。二十後に五つ年上のムコをむかえるとすれば今の小学校六年生の中から見つけることになる。町の児童数の合計は一年女子が百二十名、六年男子が百六十二名。かりに、町内だけで縁組みすれば男子が四十二名余る。五、四、三、二年と比べても男子が圧倒的に多い。全国的な現象だとか。なにごとによらず、つねに十年、二十年先のことを考えるのもたいじな社会教育のひとつ。

赤岩小学校で完全給食がはじまった。児童の体位の向上と、給食をとおしての生活指導と、それによつて地域の食生活を改善していくことが大きなねらい。かつて、

親が、なげなしの金でユリの花模様の弁当箱を買ってくれたときのうれしさや、教室で弁当をひらいたときの親の愛を、これからの子にははやくむかふことができない。それに代わる何かを見つけてなければならぬ。毎日の弁当、おかずの苦労に比べれば、一人当たり月四百五十円の負担は何でもない。サ、こういってノホンとしていく親ではダメ。

### 社会教育

町長さんは達者だ。七十を過ぎたというのにあのとおりの若さ、カクシヤクとして町政の執行に余念がない。若いときに何かスポーツをおやりになりましたか、と伺ったら、「ノシ、青年のときは四百と八百メートルの選手のがんそう」という元気な返事だった。鉄

### 小さな防火運動

昔から日本は、火災の多い国といわれています。事実火災は、経済の成長、生活様式の近代化とともに毎年増加しています。最近の火災統計からみても、火災は、一〇分ごとに日本どこかに発生し、また、毎日一億一千万以上の財産が灰になっています。これほどに多く発生している火災の原因をみてみますと、そのほとんどが私たちのちよつとした不注意や不仕末によつて発生しています。

そこで火災を無くすため、私たちは、「小さな防火運動」を推進しましょう。この「小さな防火運動」は、格別の勇気も努力も必要としません。ちよつとした注意を払うことによって恐ろしい火災が防止できるという過去の経験にてらし私たちがひとりひとりが火に対する注意心を生活の中に習慣づけるようにしようとするものなのです。例えば、たばこの吸がらの始末、石油ストーブは火を消してから油を注ぐなどの取り扱い上の注意、あるいは火を取り扱うときや火を使った後、外出や夜寝る前にはもう一度火の始末や消火を確かめることを習慣づけ、お互いに火について注意しあうことです。このようにちよつとした注意を習慣づけるだけで、私たちの国から火災はほとんど無くなるのです。十一月二十六日から一週間「秋の全国火災予防運動」が実施されます。川西町から火災をなくして明るい町にいたしましょう。

町の某所にバイクを一晚泊めて出張した。あくる日の夕がた帰ってみたら、付属品の工具一式がなくなっていた。格納ケースにはカギがなく、同種のバイクはたくさんあり、ゆくえを探がそうにも手がかりはさっぱり。官給品がなくならず、何とかして員数をつけた昔の車隊のことが思い出された。あの要領がまだ生きていたとは思えないが、それにしても盛んだヤツはたれたのか。



### 第6回川西町青少年の主張 青少年実績発表大会

十月十八日町青年団連絡協議会、公民館の共催により第六回川西町青少年の主張、青少年実績発表大会が上野小学校体育館で開かれた。最近、農業就業人口がいちぢるしく減少しているおりに、青年団活動は曲がり角にきたといわれているが、町では、昭和三十四年に第一回の大会を開いてより今年で第六回を数え、りっぱな成果を上げていくことを示した。

年々発表内容も充実しており、ことしは参加者も約三百人、自作自演の演劇も加えてひじょうに盛会だった。

### 世帯調査の実施

【国民年金】

国民年金拠出制度が充足してからすでに三年半になりました。毎月徴収している保険料もその総額二千万円となり、拠出制年金の受給者も年々増えています。

しかし国民年金が何であるか、またどのような手続きをすればよいのか不明の人も相当数に及ぶようです。そのため不要の保険料を納めたり、届けなければならぬ手続きを忘れていたりして、不利な結果をまねいているものがたくさんあります。これらの実態を調査し、すべての町民に最も有効の国民年金にするためにより世帯調査を実施することになりました。みんなの老後を守る国民年金を、全町民のより良い制度とするため、各位の積極的な協力をお願いします。

### 今月はあなたがモニターです

広報紙が、その使命をはたすにはまず読まれるものでなければならぬ。一読みやすく、解りやすく、親しみやすい「機関紙を作るためには、読者がどのような意見や希望を持っているかを知ることが第一に必要になってくると思う。それはまた編集者にとつての反省の材料でもある。編集者はたえず読者の動向に目を注いでいなければならぬ。少なくとも年に一回ぐらゐは読者調査を実施して、その関心の所在を察知するのにつとめたならば、よりよき広報紙が生まれてくると思う。それともう一つ「耳で聞く広報紙」はどうだろうか。これは、をまじえ、町政の諸般の事項について意見を交換するようにしたら最も望ましいと思うのだが、どうであろうか。



赤谷 高橋 源 吾

対象者 昭和二十一年四月一日以前に生まれた全町民。  
時期 昭和三十九年十一月下旬

### 重陽会 菊花展 愛好者の目を楽しませて30余年



文化の日、重陽会(町の菊花愛好者で組織昭和七年に発足、会長は保坂長雄さん(町議))の第三十二回品評会が上町の会長さん宅の庭で開かれた。

今回は、四十年間も菊造りにいそしむかたわら、会のため指導を惜しまなかった、平野源蔵さん(山野田)に表彰状を送るなどして残りすくないシーズンを楽しんだ本年の入賞者も次のとおりであった。

- 一等 保坂長雄
  - 参考花 一等 数藤清治
  - 同 三等 佐藤富蔵
  - 三等 市倉万吾
- (写真は品評会会場)

### かわにし 俳壇 太田白南風選

- 中屋敷 白井 トヨ子
- 稲刈の終りし雨の昼風呂に 農に生く甲斐あり新米穂積む
- 中屋敷 南 雲 良子
- 娘の文のことを気にしつ葉を間引く
- からからと走り枯葉の大道へ
- 大倉 金子 洋子
- 紅葉山日当ってをり眼に眩し
- 中屋敷 小林 たみい
- 鉄塔のたかし白雲さわやかに
- 中屋敷 山岸 清子
- 空の藍池に写りて水澄める
- 小白倉 江口 凡石
- 果てしなく秋空高し万国旗
- 小白倉 江口 愛子
- 夕しぐれ来し負稻の重たきよ

### 掲示板

方法 国民年金委員による聞きとりにて行なう。

国民年金に関する連絡、問い合わせは各部落の国民年金委員へどうぞ。国民年金委員はみなさんの相談相手です。遠慮なく申し出ください。(社会係)

- 伝達が行なわれた。
- (千手班) 平野綱蔵 小山幸一
  - 渡辺喜茂登 宮徳次郎 星名安信
  - 茂野車二 上村久平 星名真雄
  - 羽鳥仁平 蔵品伝七 蔵品喜信
  - (仙田班) 高橋由一 登坂敏政
  - 茂野作治 茂野佐平 高橋茂夫
  - 長谷川清一 登坂克己
  - (白倉班) 片桐保栄 大野喜教
  - (橋班) 村越利雄 田中富士雄
  - 田中隆一郎 丸山欽一郎 羽鳥欣一 大久保三吉
  - (上野班) 小海貞二 富井相四郎
  - 押木喜策 高橋久蔵 渡貫精一
  - 西山直利 渡貫惣平

▲協会の感謝状  
十日町地区運動者協会では、永年にわたつて協会の運営につくし交通安全防止の指導的役割りを果たしてきた班長、班委員に感謝状と記念品をおくった。川西支部では次のかたがたに田中支部長より

▲教育委員長に小林氏  
九月二十八日の教育委員会において委員長に小林誠治氏(仙田)を互選、委員長職務代行者に高橋勇太郎氏(千手)が選ばれた。